



伊豆の国市立葦山中学校 学校だより

学校教育目標

「明日に希望を持ち今日を頑張る生徒」

重点目標

「かしこく考え やさしく輝し たくましく生活する」

葦中だより

住所:伊豆の国市葦山葦山393

電話番号: 055-949-1061

令和元年6月20日発行

第14号

特別の教科「道徳」授業で道徳的心情を養います!



大原龍一先生は授業の終わりに、3.11震災体験をした子の作文を紹介しました。



大原先生のところに集まって先生に思いを伝える子供たちの表情はにこやかです。



今年度より、道徳が教科化されました。一時間一時間の道徳授業を通して様々な価値項目について、みんなでじっくり考えたり、お互いに議論し合ったりして、自分を見つめ、よりよい生き方を探求していくことが求められています。道徳科の授業方法には様々なやり方があります。そこで、6/13(木)に大原龍一明星大学教育学部教育学科准教授を招聘し、1年1組で示範授業を見せていただきました。先生が今回使用した資料は「かぜのでんわ」(いもとようこ作)です。それは、3.11東日本大震災で被災した人々の心の糧となった「電話線が繋がっていない『風の電話ボックス』」をもとに作られたものです。

授業が始まると、子どもたちは大原先生の優しい言葉がけにあっという間に引き込まれていました。子どもたちの手元には資料はありません。画面に映し出されている絵と先生の資料読みだけです。子どもたちは「かぜのでんわ」の内容や被災して大切な家族や友達を亡くした人たちの気持ちを静かに想像していました。「みんな(絵本に登場していた動物たち)はどんな思いから電話をかけに山にのぼったんだろうね」という問いかけに自分の思いを次々とみんなに伝えている子どもたち。こんなにも真剣に素直に語る子どもたちの姿に感激しました。改めて道徳科の重要性を実感しました。

私たちは子どもたちの道徳的心情を養う道徳科授業をより一層工夫していきたいと思えます。

…おじいさんが受話器をとると、雪はぴたりとやみ、数え切れないほどの星がきらきらと輝き始めました。まるで「でんわありがとう…ありがとう…」と言っているようです。おじいさんは空を見て叫びました。「届いたんだ!みんなの思いが届いたんだ!」

※これは最後の一節です。



この絵本は「いもとようこ」さん作です。



田方地区PTA指導者研修会で発表!



六月五日(土)に田方地区全小中学校の各PTA代表の方々が集まり、天城中学校で研修会を行いました。その中、杉本会長さんが葦中PTA活動について発表しました。そして、分科会では活発な意見交換をすることができました。

【石田氏による講演会】～「子育ては上手くいかないと思うべし!」



分科会と全体会に続いて講演会がありました。講師は、いしだジム所長でガイダンスカウンセラーの石田純夫氏でした。石田先生は「親はよい子を育てようと頑張り、よい子の姿に満足します。でも子供は本来、反抗したり、失敗したり、悩んだり、困ったりします。そして、いろいろなことに葛藤しながら自分で乗り越えて自立に向かっていけるんです」「親の支配・過干渉、甘やかしは子供の自立を阻むこととなります・・・」と、親の「こうしたい姿」について分かりやすく事例を交えてお話してくださいました。最後に親のできることを以下のようにまとめていました。

○今を認めて伴走すること(干渉しすぎない・本人の気持ちを考える努力をする・見守る)

○子供を良く、親が前を向いて歩く、「安全地帯」を奪わない、必ず自立すると信じる

家庭は「北風と太陽」の「太陽」でありたいという言葉も印象的でした。とてもいい講演でした。

○今を認めて伴走すること(干渉しすぎない・本人の気持ちを考える努力をする・見守る)

○子供を良く、親が前を向いて歩く、「安全地帯」を奪わない、必ず自立すると信じる

家庭は「北風と太陽」の「太陽」でありたいという言葉も印象的でした。とてもいい講演でした。



ボディースラップ特訓中!



体育授業では青雲祭の表現種目「ボディースラップ」の練習が始まっています。体育館を覗くと、上級生が1年生に一つ一つの動作を教えています。「タンタン、タタタン・・・こうやるんだよ」「じゃあ、一緒にやるよ」「そうそう上手いよ」など、先生さながらの指導に頼もしさを感じました。こうやって伝統はつづられ、つながっていくのですね。

保護者の方からのご意見・感想

()年()組()

(生徒名)

※体罰やいじめ等教育活動の中で気になる点や心配なことについても遠慮なくお知らせください。